

# 2023年総会 議案書

2023年5月13日（土）

## 議 題

1. 2022年度事業報告
2. 2022年度決算報告
3. 2023年度事業計画案
4. 2023年度予算案

日 本 出 版 学 会

<https://www.shuppan.jp> e-mail : [info@shuppan.jp](mailto:info@shuppan.jp)

〒166-0015 東京都杉並区成田東 4-35-23

TEL : 03-3313-7347 FAX : 03-3313-7348

## 2022年度事業報告 (2022年4月1日～2023年3月31日)

### 1. 概況

1969年3月に設立された日本出版学会は、創立から50年をむかえ、新たな時代への歩みを進めている。これまで設立の理念と志を尊重し、円滑な研究者の交流や情報交換をおこない、研究成果の発表のために、学会誌や会報の発行、研究発表会や各種の部会活動、そして国際出版研究フォーラム（IFPS：The International Forum on Publishing Studies）への参加を継続的にこなってきた。

これらが可能となったのは、何よりも学会を構成する会員の方々の努力と、経済的な支援をはじめ様々な便宜をはかっていただいている賛助会員の方々のご協力の賜物であり、ここに改めて深甚なる感謝の意を表したい。

2022年度における日本出版学会の活動は、それまでの研究や人的交流の蓄積に基づいて着実に進められ、出版研究に対する関心は一層高められた。特に2020年度より開始した産学連携プロジェクトにより、積極的に出版業界との連携を推進した結果、日本書籍出版協会や出版文化産業振興財団との交流に繋がった。これは日本出版学会の歴史の中でも特筆すべきことである。

春季研究発表会は、2022年5月14日に日本大学法学部神田三崎町キャンパスで開催した。参加者は86名であり、7名の研究発表、2つのワークショップ、1つの特別講演をおこなった。

また、秋季研究発表会は、2022年12月3日に追手門学院大学総持寺キャンパスで開催し、40名の参加者で、4名の研究発表および2つのワークショップをおこなった。

### 2. 会員数

正会員	287名
賛助会員	法人 32社
名誉会員	2名

(2023年3月末日現在)

### 3. 総会

2022年総会は、2021年5月14日、日本大学法学部神田三崎町キャンパスで88名(委任状を含む)の会員が出席、2021年度事業報告、同決算、同特別会計決算、2022年度事業計画案、同予算案、同特別会計予算案をそれぞれ審議・可決した。

### 4. 理事会

2022年度の会務をおこなうため、2021年総会から本総会に至るまでの間、理事会を下記のとおり開催した。

第1回：	2022年5月14日
第2回：	2022年6月27日
第3回：	2022年9月5日
第4回：	2022年12月12日
第5回：	2023年3月6日
第6回：	2023年4月17日
第7回：	2023年5月13日

### 5. 調査研究委員会

調査研究委員会は、主として各部会間の連絡調整にあたった。各部会の活動状況は次の

とおりである。

(1) 学術出版研究部会

4月11日(オンライン)「〈学術出版を語る4〉出版の未来、出版社の未来——多様な読者の求めるもの」矢部敬一

5月17日(オンライン)「〈学術出版を語る5〉学術出版と大学出版の課題と展望——電子学術書実証実験から10年を経過して」黒田拓也

(2) 雑誌研究部会

10月17日(オンライン)「戦後フランスにおける言論誌の軌跡」中村督(日本出版学会賞受賞記念講演会)

11月30日(オンライン)「戦後少年誌の変容と「ストーリーマンガ」の成立」金泰龍

2月24日(オンライン)「大宅壮一が遺したもの」阪本博志

(3) 出版アクセシビリティ研究部会

3月8日(オンライン)「読書のバリアフリーを進める」新名新・林剛史・植村八潮・落合早苗

(4) 出版技術研究部会

今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。

(5) 出版教育研究部会

11月18日(オンライン)「専門書店と取次の関係を考える：猫本専門「神保町にゃんこ堂」を題材にして」姉川夕子・徳永江里子

(6) 出版産業研究部会

11月19日(オンライン)「韓国出版産業の現状と課題」白源根・金貞明

(7) 出版史研究部会

11月17日(オンライン)「『プレス自由』の歴史的諸相——近代ドイツの出版法制と政治参加の観点から」的場かおり(日本出版学会賞受賞記念講演会)(出版法制研究部会共催)

(8) 出版デジタル研究部会

9月13日(オンライン)「出版DX基盤「MDAM(エムダム)」開発背景や導入効果について」松下延樹・早坂悟

10月11日(オンライン)「電子出版市場急成長の一翼を担う電子書店と電子取次——KADOKAWAグループのデジタル事業戦略」橋場一郎・鷹野凌

11月28日(オンライン)「書籍のデジタル化と今後の展開——『パブリッシング・スタディーズ』第4章第3節報告」林智彦・鷹野凌

1月23日(オンライン)「雑誌のデジタル化と今後の展開——『パブリッシング・スタディーズ』第5章第3節報告」清水一彦・梶原治樹

(9) 出版編集研究部会

4月21日(オンライン)「編集者の編集論を編集すること——『編集の提案』から」宮田文久

1月25日(オンライン)「漫画編集者としてのひとつの生き方」金城小百合

(10) 出版法制研究部会

11月17日(オンライン)「『プレス自由』の歴史的諸相——近代ドイツの出版法制と政治参加の観点から」的場かおり(日本出版学会賞受賞記念講演会)(出版史研究部会共催)

(11) 翻訳出版研究部会

今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。

(12) MIE研究部会

7月25日(専修大学神田キャンパス及びオンライン)「江戸川大学の雑誌制作教育」本多悟

10月21日(専修大学神田キャンパス及びオンライン)「武蔵野大学の雑誌制作教育」上田宙

(13) 関西部会

3月4日(オンライン)「雑誌出版とジェンダー——『婦人文藝』主宰者としての神近市子を中心に」石田あゆ

## 6. プログラム委員会

総務委員会と調査研究委員会によって構成される合同委員会を開催し、研究発表会の企画・運営に当たった。

(1) 春季研究発表会(2022年5月14日、日本大学法学部神田三崎町キャンパス)

〈研究発表〉

1. 「災害ジャーナリズムの役割実践に関する研究——熊本県川辺川ダム建設の新聞報道を事例に」本多祥大
2. 「出版における経営・広告戦略としてのメディアミックスとその課題——出版原作の映像等二次制作における、監修と制作随意性に対する考察を中心として」公野勉
3. 「装丁のイメージ画像が書籍の購買意欲に及ぼす影響」岡野雅雄・浅川雅美
4. 「コレクタブルカードとナショナリズム——レームツマの「煙草カード・アルバム」を例として」竹岡健一
5. 「投稿誌『わいふ』の言説空間の構築について」豊田雅人
6. 「雑誌『美術新報』による文部省美術展覧会報道の批評性とその意義」日比野未夢
7. 「陸軍恤兵部と五日会——『銃後の我等』について」大澤聡  
〈特別講演〉
1. 「出版業界の抱える課題と改革の方向性——書店・流通の視点から」近藤敏貴  
〈ワークショップ〉
1. 「ジャーナリズムの倫理と実際——出版と放送の視点から考える理論と実践的課題」塚本晴二郎・笹田佳宏・富川淳子・石川徳

幸

2. 「学協会活動のアクセシビリティを考える——日本出版学会の活動を中心に」植村八潮・野口武悟・池下花恵・植村要

(2) 秋季研究発表会(2022年12月3日、追手門学院大学総持寺キャンパス)

〈研究発表〉

1. 「雑誌記事の言説からみる「推し活」のメディアイメージ」田島悠来
2. 「MIEでの雑誌づくり：教員・指導者用マニュアル2——手描きラフの重要性と追加プログラム」清水一彦
3. 「大学図書館における人文社会系の専門書の所蔵状況——出版社を対象とした試行的分析」久保琢也
4. 「第二共和政期バルセロナにおける本の日とサン・ジョルディの日の「接続」——特に空間史的分析を中心に」菊池信彦  
〈ワークショップ〉
1. 「兵田印刷工芸が支えるラノベ聖地巡礼とコラボ企画——「チラムネ福井コラボ」のこれまでとこれから」山中智省・貝淵友哉・西中辰也
2. 「『出版学』を問い直す——『パブリッシング・スタディーズ』を題材に」森貴志・塚本晴二郎・村木美紀・芝田正夫

## 7. 日本出版学会賞

(1) 受賞図書・論文

第43回日本出版学会賞は、下記のとおりである。

【日本出版学会賞奨励賞】

的場かおり 著『プレスと自由と検閲・政治・ジェンダー——近代ドイツ・ザクセンにおける出版法制の展開』(大阪大学出版会)

中村督 著『言論と経営——戦後フランス社会

における「知識人の雑誌」』（名古屋大学出版会）

【日本出版学会賞特別賞】

東京都古書籍商業協同組合 編『東京古書組合百年史』（東京都古書籍商業協同組合）

大宅壮一文庫（大宅壮一文庫のこれまでの出版研究への貢献に対して）

(2) 日本出版学会賞審査委員会

日本出版学会賞審査委員会は、第44回日本出版学会賞の審査にあたった。

(3) 受賞記念講演会

1. 10月17日（オンライン）「戦後フランスにおける言論誌の軌跡」中村督
2. 11月17日（オンライン）『「プレス」の自由』の歴史的諸相——近代ドイツの出版法制と政治参加の観点から』的場かおり

## 8. 『出版研究』編集委員会

『出版研究』編集委員会は、学会誌『出版研究』の企画・編集にあたり、第52号（A5判、136頁、600部、定価：本体2,600円＋税）を2022年4月に発行し、引き続き第53号（A5判、104頁、600部、定価：本体2,600円＋税）の編集をおこなった。

## 9. 広報委員会

広報委員会は、学会活動に関する対外的広報活動を随時おこなうとともに、学会案内の作成、および『日本出版学会会報』の企画・編集にあたり、次の各号を発行した。

第152号＝16頁、2022年4月15日（700部）

第153号＝36頁、2022年10月31日（700部）

また、公式ウェブサイトの充実をはかり、情報発信をおこなった。

## 10. 関西委員会

関西委員会は、調査研究委員会と協力して、学会の秋季研究発表会の運営にあたった。

## 11. 国際交流委員会

国際交流委員会は、第20回国際出版研究フォーラム（IFPS）の開催にあたり、中国編輯学会との連絡にあたった。また、第21回国際出版研究フォーラム（日本開催）に向け、企画・運営をおこなった。

## 12. 役員（2024年度総会まで）

会長＝富川淳子

副会長＝清水一彦 中西秀彦 山崎隆広

理事＝飛鳥勝幸 安部由紀子 池下花恵

石川徳幸 石田あゆう 伊藤民雄 植村要

牛山佳菜代 梶原治樹（事務局長）

駒橋恵子 鈴木親彦 鷹野凌 玉川博章

長尾宗典 中村 幹（財務担当） 橋元博樹

秦洋二 本多悟 宮下義樹

村木美紀（事務局次長） 森貴志 山中智省

山中秀夫 湯浅俊彦

監事＝茨木正治 塚本晴二郎

## 13. 委員会メンバー

（◎＝委員長・部会長、○＝副委員長）

(1) 総務委員会＝◎石川徳幸 牛山佳菜代  
梶原治樹 清水一彦 玉川博章 富川淳子  
中西秀彦 中村幹 村木美紀 森貴志  
山崎隆広

(2) 調査研究委員会＝森貴志

学術出版研究部会＝◎橋元博樹 山崎隆広  
吉田拓歩

雑誌研究部会＝◎山中智省 玉川博章

石川徳幸 田島悠来

出版アクセシビリティ研究部会=◎野口武悟  
植村要（担当理事）

出版技術研究部会=◎矢口博之  
中村幹（担当理事）

出版教育研究部会=◎伊藤民雄 ○本多悟  
清水一彦

出版産業研究部会=◎鈴木親彦 岡部友春  
橋元博樹

出版史研究部会=◎長尾宗典 柴野京子  
石川徳幸

出版デジタル研究部会=◎鷹野凌 梶原治樹  
徳永修 藤井健人 堀鉄彦 矢口博之

出版編集研究部会=◎飛鳥勝幸 小林えみ  
吉田拓歩

出版法制研究部会=◎宮下義樹

翻訳出版研究部会=◎柴田耕太郎  
安部由紀子（担当理事）

MIE 研究部会=◎清水一彦 富川淳子

関西部会=◎中村健 石田あゆう 磯部敦  
中西秀彦 秦洋二 村木美紀 山中秀夫  
湯浅俊彦

(3) 『出版研究』編集委員会=◎玉川博章  
飛鳥勝幸 稲田隆 上田宙 鷹野凌 辻泉  
中川裕美 山崎隆広 山中智省 山森宙史  
吉田拓歩

(4) 広報委員会=◎牛山佳菜代 石川徳幸  
秦洋二

(5) 関西委員会=◎中西秀彦 石田あゆう  
磯部敦 中村健 秦洋二 村木美紀  
山中秀夫 湯浅俊彦

(6) 国際交流委員会=◎山崎隆広 植村八潮

(7) 日本出版学会賞審査委員会=◎富川淳子  
塚本晴二郎 石川徳幸 川井良介 駒橋恵子  
鈴木親彦 村木美紀

(8) プログラム委員会=◎宮下義樹  
駒橋恵子 湯浅俊彦

(9) 産学連携プロジェクト=梶原治樹

村木美紀

#### 14. 『パブリッシング・スタディーズ』プロジェクト

日本出版学会とは、いかなる学会なのかを明確にするための出版物を刊行しよう、というこのプロジェクトは、2022年4月に書籍を刊行することができ、プロジェクトが終了した。

#### 15. 「産学連携」プロジェクト

出版学会と出版業界の新しい連携を模索したこのプロジェクトにより、出版文化産業振興財団からも調査研究での協力要請を受けた。また、2022年度春季研究発表会にて、出版文化産業振興財団の近藤敏貴理事長の特別講演を開催した。

## 日本出版学会2022年度決算報告

以下のとおり報告いたします。

会 長 富川淳子  
 副会長 清水一彦 中西秀彦 山崎隆広  
 理 事 飛鳥勝幸 安部由紀子 池下花恵 石川徳幸 石田あゆう 伊藤民雄 植村要  
 牛山佳菜代 梶原治樹 駒橋恵子 鈴木親彦 鷹野凌 玉川博章 長尾宗典  
 中村幹 橋元博樹 秦洋二 本多悟 宮下義樹 村木美紀 森貴志 山中智省  
 山中秀夫 湯浅俊彦

監査は結果公正なもの認めます。

監 事 茨木正治 塚本晴二郎

### 【 貸 借 対 照 表 】

2023年3月末日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
現 金	27,174	
振替預金	2,348,710	東京貯金局
普通預金①	1,516,054	三井住友銀行飯田橋支店
普通預金②	11,910	三菱UFJ銀行市ヶ谷支店
普通預金③	792,046	三菱UFJ銀行神保町支店
普通預金④	1,116,473	みずほ銀行京橋支店
合 計	5,812,367	
負債・資本の部		
科 目	金 額	備 考
前受金	0	
未払金	0	
前期繰越金	5,399,697	
当期正味財産増加額	412,670	
合 計	5,812,367	

# 日本出版学会2022年度決算報告

## 【 収 支 計 算 書 】

自2022年4月1日～至2023年3月31日

収 入 の 部				
科 目	2021年度決算	2022年度予算	2022年度決算	対前年比
入会金	55,000	60,000	55,000	0.00%
正会員会費	2,211,000	2,200,000	2,179,000	-1.45%
過年度分会費	380,000	350,000	315,000	-17.11%
賛助会員会費	1,610,000	1,500,000	1,370,000	-14.91%
研究会収入	0	150,000	110,000	—
懇親会収入	0	150,000	0	—
雑収入	41	40	39	-4.88%
図書代金	177,033	170,000	222,300	25.57%
寄附金	30,000	30,000	30,000	0.00%
当期収入合計 (A)	4,463,074	4,610,040	4,281,339	-4.07%
前期繰越収支差額	5,713,331	5,399,697	5,399,697	-5.49%
収入合計 (B)	10,176,405	10,009,737	9,681,036	-4.87%
支 出 の 部				
科 目	2021年度決算	2022年度予算	2022年度決算	対前年比
出版研究経費	677,001	600,000	491,046	-27.47%
会報製作費	253,275	250,000	231,220	-8.71%
ウェブ等広報費	832,020	140,000	142,870	-82.83%
研究会費	100,000	400,000	173,129	73.13%
懇親会費	0	150,000	0	—
出版学会賞経費	198,473	170,000	154,182	-22.32%
会議費 (理事会・総務委)	0	0	2,200	—
通信費	303,652	300,000	275,325	-9.33%
印刷費	26,460	25,000	23,560	-10.96%
旅費交通費	0	100,000	56,000	—
業務委託料	2,244,000	2,244,000	2,244,000	0.00%
備品費	0	0	0	—
事務用消耗品費	31,902	25,000	17,527	-45.06%
諸会費	100,000	50,000	50,000	-50.00%
雑費	9,925	8,000	7,610	-23.32%
予備費	0	0	0	—
当期支出合計 (C)	4,776,708	4,462,000	3,868,669	-19.01%
当期収支差異 (A)-(C)	-313,634	148,040	412,670	—
次期繰越収支差額 (B)-(C)	5,399,697	5,547,737	5,812,367	7.64%



## 日本出版学会2022年度特別会計

### 【 収 支 計 算 書 】

自2022年4月1日～至2023年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2021年度決算	2022年度予算	2022年度決算
前期繰越金	2,432,777	2,432,792	2,432,792
周年記念事業寄付金（個人）	0	0	0
周年記念事業寄付金（法人）	0	0	0
東京経済大学補助金	0	0	0
大会収入	0	0	0
雑収入	15	15	16
合 計	2,432,792	2,432,807	2,432,808
支 出 の 部			
科 目	2021年度決算	2021年度予算	2021年度決算
周年記念事業経費	—	0	—
大会支出	0	—	0
印刷費	0	—	0
通信費	0	—	0
事務費	0	—	0
雑費	0	0	0
出版研究電子化費用	0	0	0
予備費	0	0	0
支出合計	0	0	0
繰 越 金	2,432,792	2,432,807	2,432,808

### 【 資 産 状 況 一 覧 】

2023年3月31日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
普通預金①	1,805,851	三井住友銀行飯田橋支店
未入金	0	
小口現金	626,957	
合 計	2,432,808	

## 2023 年度事業計画 (2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、2019 年 3 月に創立 50 周年を迎え、学術研究団体として、確固たる地位を築きつつある。デジタル・ネットワーク社会における出版メディアのあり方は劇的に変化し、出版研究の重要性はますます高まっている。

出版研究が新たな段階に入っていると捉え、出版および出版学の射程を広げるとともに、原点を確認する研究活動を進める。

そこで当学会は、従来の出版研究の諸分野の活動を以下のように継続・拡大するとともに、次の世代に対する責任を果たしたいと考えている。

### 1. 研究活動の推進と充実

#### ① 研究部会活動の推進

当学会の活動がその規模に比較して活発である背景には、多様な部会活動があるといえよう。今後とも会員の期待に応えるべく、さらに積極的な部会活動がおこなわれるように努力したい。

#### ② 研究発表会の拡充

春季および秋季研究発表会において積極的な発表が続いており、活発な議論がおこなわれている。また時代の研究課題に応えるシンポジウム、ワークショップの企画や、基調講演もあり、毎回、多数の参加者を数えている。今後とも、学術的水準向上の観点から、研究発表会をより充実させるため、会員の積極的な発表や会員間の討論の場を増やしていきたい。

#### ③ 学会誌の発行

『出版研究』第 54 号の企画・編集を進め、年度内の発行を予定する。

### 2. 研究活動のネットワークの拡大

1984 年 10 月に最初の国際出版研究フォーラム(IFPS)が韓国ソウルで開催された。以来、38 年あまりの間に我々は様々な交流を通じて、より内容を深めた議論をおこなう段階に到達している。IFPS の継続運営や海外在住会員との恒常的な連携、また部会活動を通じた国内の研究者間のネットワークも拡大している。また、2024 年に日本で開催を予定している第 21 回 IFPS を実施し、各国との研究交流を進めたい。

### 3. 会勢と財政の充実

当学会は当初 66 名の発起人によって設立されたが、現在、会員数は約 320 に至った。しかし、学術研究団体としては決して多い数ではなく、その社会的使命を果たすためには、より多くの会員を擁することが必要と思われる。日常の部会活動や各種の刊行物を通じて、会員の獲得、会勢の充実を期したいと考えている。

また、学会財政は、長期にわたって出版産業の経済活動が停滞していることも要因となって、厳しい状況にある。ここ数年の経費節減の取り組みによって、現在は均衡を保っているものの、さらなる経費節減を進めている。

#### 4. 広報活動の充実

##### ①『日本出版学会会報』

本年においては2号の発行を予定し、内容の充実を図る。

##### ②ウェブサイトの拡充

ウェブサイトの情報発信力を高め、会員間の情報交換を密にする。また会報との連動によって学会の公知化に資することとする。

#### 5. 日本出版学会賞の審査・授与

学会創立10周年を記念して創設された日本出版学会賞については、その後、毎年継続されており、本年も審査・授与をおこなう。

また、『出版研究』掲載論文を対象に2016年度に新設した「清水英夫賞（日本出版学会優秀論文賞）」は、隔年審査をしており、今回は2024年度に審査・授与をおこなう。

#### 6. 『出版研究』『会報』の電子化

創立50周年事業として開始した『出版研究』及び『日本出版学会会報』の電子化を継続する。なお『出版研究』については、アクセシビリティの実現を目指して研究を継続する。

#### 7. 創立55周年記念事業

2024年におこなう創立55周年記念事業に向け、野間省伸氏を委員長とする日本出

版学会創立55周年記念事業委員会を立ち上げ、募金活動を実施する。

#### 8. 「産学連携」プロジェクト

2022年度春季研究発表会での特別講演を踏まえ、出版文化産業振興財団との交流を具体化していく。また、産学連携担当理事を2名置き、日本出版学会として今年度以降も常に検討すべき事項とする。

#### 9. 出版学研究隣接学会・団体等への研究・活動協力

NPO法人本の学校主催によるシンポジウムへの協力など、隣接する学会・団体との交流を促進し、相互に研究活動を協力する。

# 日本出版学会2023年度予算案

## 【 収 支 計 算 書 】

自2023年4月1日～至2024年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2022年度決算	2023年度予算	備 考
入会金	55,000	60,000	
正会員会費	2,179,000	2,200,000	
過年度分会費	315,000	300,000	
賛助会員会費	1,370,000	1,400,000	
研究会収入	110,000	150,000	
懇親会収入	0	400,000	
雑収入	39	40	
図書代金	222,300	150,000	
寄附金	30,000	30,000	
当期収入合計 (A)	4,281,339	4,690,040	
前期繰越収支差額	5,399,697	5,812,367	
収入合計 (B)	9,681,036	10,502,407	
支 出 の 部			
科 目	2022年度決算	2023年度予算	備 考
出版研究経費	491,046	500,000	
会報製作費	231,220	250,000	
ウェブ等広報費	142,870	142,870	
研究会費	173,129	300,000	
懇親会費	0	400,000	
出版学会賞経費	154,182	170,000	
会議費(理事会・総務委)	2,200	10,000	
通信費	275,325	300,000	
印刷費	23,560	27,000	
旅費交通費	56,000	100,000	
業務委託料	2,244,000	2,244,000	
備品費	0	0	
事務用消耗品費	17,527	25,000	
諸会費	50,000	50,000	
雑費	7,610	8,000	
予備費	0	0	
当期支出合計 (C)	3,868,669	4,526,870	
当期収支差異 (A)-(C)	412,670	163,170	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	5,812,367	5,975,537	

## 日本出版学会2023年度特別会計予算案

### 【 収 支 計 算 書 】

自2023年4月1日～至2024年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2022年度決算	2023年度予算	備 考
前期繰越金	2,432,792	2,432,808	
周年記念事業寄付金（個人）	0	250,000	1口5000円×50口
周年記念事業寄付金（法人）	0	2,500,000	1口1万円×250口
東京経済大学補助金	0	0	
大会収入	0	0	
雑収入	16	15	
合 計	2,432,808	5,182,823	

支 出 の 部			
科 目	2021年度決算	2022年度予算	備 考
周年記念事業経費	—	150,000	
大会支出	0	—	
印刷費	0	—	
通信費	0	—	
事務費	0	—	
雑費	0	3,000	
出版研究電子化費用	0	0	
予備費	0	0	
支 出 合 計	0	153,000	
繰 越 金	2,432,808	5,029,823	